

令和 8 年(2026 年度)
事業計画

学校法人和風会
多摩リハビリテーション学院専門学校

目次

①学校法人和風会

概要

沿革

名称・所在地

役員・評議員

学校関係者評価委員

和敬清寂委員

②多摩リハビリテーション学院専門学校

教職員

各種委員会

各学科

(1)作業療法学科

(2)理学療法学科

(3)言語聴覚学科

(4)介護福祉学科

学校法人和風会設立概要

現在、我が国の保健・医療・福祉・教育を取り巻く状況は急速に変化しており、各方面ではさまざまな構造改革が進んでいます。このような状況の中で私たちが取り組む必要のある課題は山積しており、設立母体である医療法人社団和風会では、東京都西多摩地区、埼玉県西部地区を中心に地域医療を展開し、急性期から慢性期の医療だけでなく自立支援できるよう早期からリハビリテーション事業に着手して参りました。さらに予防医学を基本としたリハビリテーションにも着目し生活習慣病の運動療法を取り入れた施設を開設、展開し、リハビリテーションを核に先駆的役割を果たしております。

その様な状況下、医療法人社団和風会の中で人材養成を担当する前身の多摩リハビリテーション学院では、リハビリテーション専門職の人材育成が急務であることを感じ、平成 8 年 4 月に作業療法士養成施設（昼間部 4 年制）開設を皮切りに、翌平成 9 年には理学療法学科（昼間部 4 年制）、平成 10 年には言語療法学科（夜間部 4 年制）、平成 15 年に言語聴覚学科（大卒者 2 年課程）を年々学科増設しました。その後リハビリテーション養成分野に大学などの参入もあり差別化を図るべく、平成 20 年 4 月に作業療法学科を 4 年課程から 3 年課程に、平成 21 年 4 月に理学療法学科を 4 年課程から 3 年課程に、平成 23 年には言語療法学科（夜間）を廃止し、平成 24 年 4 月に言語聴覚学科（昼間大卒 2 年課程）を定員 40 名にし、最短期間でリハビリテーションの国家資格が取得できる養成施設として通算 27 年間にわたり地域の医療、福祉を担う卒業生を 2,650 人以上にわたり輩出して参りました。

今後はますます進行する高齢化社会の一方で、18 歳人口の減少等による学校の運営を取り巻く環境は年々厳しさを増す中、地域及び社会情勢の変化に的確に応じ、質の高い学生の養成や経営の基盤強化をはかるべく、平成 31 年 4 月に学校法人和風会を設立し、多摩リハビリテーション学院専門学校として東京都及び青梅市より認可を頂きました。

多摩リハビリテーション学院専門学校では、今後益々進む高齢化の中で、引き続き次世代の質の高いリハビリテーション医療技術者の養成と並行し、病院、施設等では福祉の人材不足が懸念されており、新たに外国人も含めた福祉の分野で活躍する技術者の養成に着手すべく、令和 4 年(2021 年度)に介護福祉学科を増設しました。今年度は介護福祉学科も 5 期生を迎え、更なる教育の充実と拡充をはかるものとなります。

名称・所在地

法人名	学校法人和風会
学校名	多摩リハビリテーション学院専門学校
法人・学校住所	東京都青梅市根ヶ布1-642-1

役員及び評議員

理事長	理事長	石田 信彦	評議員 (定数18名)	評議員	岩戸 徹
理事・監事 (理事7名・監事2名)	常任理事	林 義巳		評議員	鎌田 小百合
	常任理事	黒田 英寿		評議員	佐藤 謙司
	理事	数野 國明		評議員	木村 欣司
	理事	田中 勇次郎		評議員	半沢 寛
	理事	畢 焜		評議員	高木 博之
	理事	古山 雄一		評議員	加藤 哲禎
	監事	小澤 達也		評議員	木村 洋治
	監事	田中 康雄		評議員	大山 京子
				評議員	池田 隆純
		評議員		鈴木 康雄	
		評議員		奥山 浩太	
		評議員		池田 健祐	
		評議員		竹田 陽介	
		評議員		西片 裕	
		評議員	横濱 秀征		
		評議員	成塚 修一		
		評議員	鈴木 健二郎		

学校関係者評価委員会

委員長	鈴木 康雄				
委員	奥山 浩太	池田 健祐	竹田 陽介	高木 博之	加藤 哲禎
	人見 太一				

和敬清寂委員会(教職員接遇向上及び各種ハラスメント対策)

委員長	林 義巳				
委員	岩戸 徹	鎌田 小百合	佐藤 謙司	木村 欣司	鈴木健二郎
	黒田 英寿	師岡 静枝			

②多摩リハビリテーション学院専門学校
教職員
学院長・副学院長・事務長

学院長(常任理事)	林 義巳
副学院長	岩戸 徹
事務長(常任理事)	黒田英寿

作業療法学科

学科長	鎌田 小百合	作業療法士
主任	中村 晃一	作業療法士
主任	横濱 秀征	作業療法士
教員	清水 誠	作業療法士
教員	庄司 麻美	作業療法士
教員	岩田 一鷹	作業療法士

理学療法学科

教務部長兼学科長	佐藤 謙司	理学療法士
主任	成塚 修一	理学療法士
主任	西井 琢馬	理学療法士
教員	鈴木 恒	理学療法士
教員	小嶋 陽香	理学療法士
教員	宮永 美紗子	理学療法士

言語聴覚学科

副教務部長兼学科長	木村 欣司	言語聴覚士
主任	西片 裕	言語聴覚士
教員	鈴木 真生	言語聴覚士
教員	山崎 暁	言語聴覚士
教員	古谷 祥宏	言語聴覚士

介護福祉学科

学科長	鈴木 健二郎	介護福祉士
主任	竹内 克	社会福祉士 介護福祉士
教員	千葉 真規子	看護師

カウンセラー・心理学担当

	藤枝 幹大	臨床心理士
--	-------	-------

各種委員会委員

◎広報委員会

委員長	景山 雄介				
委員	師岡 静枝	中村 晃一	岩田 一鷹	岩戸 徹	成塚 修一
	山崎 暁	古谷 祥宏	鈴木 健二郎	石黒 真也	三浦 健
	岩田 宏美				

◎学生生活向上委員会

委員長	佐藤 讓司				
委員	清水 誠	藤枝 幹大	山崎 暁	鈴木 健二郎	景山 雄介
	三浦 健	清水 真紀	黒田 英寿		

◎就職委員会

委員長	鈴木 真生		
委員	鎌田 小百合	小嶋 陽香	竹内 克
	黒田 英寿	石黒 真也	

◎校友会委員会

委員長	西片 裕				
委員	横濱 秀征	小嶋 陽香	鈴木 健二郎		
	榊田 史江	岩田 宏美		監査	黒田 英寿

◎学校評価委員会

委員長	林 義巳				
委員	黒田 英寿	岩戸 徹	鎌田 小百合	佐藤 讓司	木村 欣司
	鈴木 健二郎				

◎教育課程編成委員会

委員長	岩戸 徹				
委員	林 義巳	黒田 英寿			
	鎌田 小百合	佐藤 讓司	木村 欣司	鈴木 健二郎	中村 晃一
	成塚 修一	西片 裕	竹内 克	横濱 秀征	西井 琢馬
	景山 雄介	師岡 静枝			
外部委員	鈴木 康雄	池田 健祐	赤松 栄晃		
	大堀 隆二	人見 太一			

◎情報システム委員会

委員長	師岡 静枝				
委員	岩田 一鷹	西井 琢馬	古谷 祥宏	岩田 宏美	

◎医療法人社団和風会 学術委員会

委員長	鈴木 真生	
委員	庄司 麻美	鈴木 恒

在校生

学科	学年	定員	昼/夜	教室	担任
作業療法学科	1学年	40	昼	南302	中村・横濱
	2学年	40	昼	北302	庄司・岩田 横濱 (副担任)
	3学年	40	昼	学院ホール201	鎌田・清水
理学療法学科	1学年	40	昼	南301	西井・佐藤
	2学年	40	昼	北301	鈴木恒・宮永
	3学年	40	昼	学院ホール202	小嶋・成塚
言語聴覚学科	1学年	40	昼	北401	基幹教員
	2学年	40	昼	北402	基幹教員
介護福祉学科	1学年	40	昼	南303	基幹教員
	2学年	40	昼	南304	基幹教員

学 科	作業療法学科
入学定員充足	OTプロジェクトを定員充足プログラムと学業充実プログラムの2種に分けて展開します。既存の体験会以外に、夕方開催のオンラインセミナーを実施し、より多くの方が学科教員とつながる機会を増やす予定です。和風会の紹介制度入試では学院の特長を明確にした情報発信を行い、和風会の組織力を活かした広報を進めて参ります。高校訪問では、在校生と共に訪問ができるよう調整し、進路指導教員への印象付けを強めていく意向です。また、多摩高専のチャレンジプログラムや青梅新緑祭でのブース出展など作業療法の啓蒙を積極的に行い長期的視点での定員充足に努めます。
教育(カリキュラム・学生サポート等)	各学年担任2名とし学生の状況把握に注力して参ります。他学年交流を積極的に取り入れながら1年時には自主的な学習態度、2年時には専門性の理解、3年時には他者理解と自己発揮を目標とし指導します。新緑祭や認知症予防講座など、青梅市と連携した活動を行い地域貢献に努めます。成績不良者のみならず多くの学生および保護者とこまめに連絡を取ることで学生の学校生活のサポートを図ります。また、授業外での居場所づくりを意識した環境調整や課外活動を行い、成績低下、途中退学の防止を図ります。
国家試験対策	1年次から基礎3科目を中心に補講を設定し、各領域へのつながりと基礎の重要性を促します。2年次では専門科目の授業内で国家試験問題を積極的に扱います。3年次で定期的な確認試験による実力把握とともに、ICTを活用した個別指導を行います。また3年留年生は漫然とした個別学習にならないよう1・2年生の授業への積極的な参加ならびに定期的な小テストを促しながら基礎学習の復習を進めます。3年4月から教員の個別担当を設け、臨床実習中から行っている心理的サポートを継続し学生に合わせた効率的な学習を促します。
就職支援	4月就職ガイダンスにて履歴書の書き方、面接の受け方の指導を行います。臨床実習中にも求人情報が確認できるようにオンラインでの求人情報閲覧アクセスの周知を図ります。就職説明会を7月に実施し、秋以降の国家試験対策に支障が出ないよう効率的な就職活動の時間配分について指導します。就職説明会は実習地に限定した病院施設に限定し、複数施設の比較をすることで学生のより希望に沿った就職をサポートしていきます。
校友会(同窓会)との連携	新卒対象に絞った対話型支援を計画し、卒業後も気軽に相談できる関係性づくりを大事にしていきます。また、OSCEや実技授業などに卒業生の協力を依頼し、卒前教育と卒後教育の橋渡しができるような仕組み作りも丁寧に検討して参ります。
その他	年度初めに各学年で保護者を対象とした説明会を開催し、各学年での科目数や年間計画などを説明して参ります。学生のみならず、保護者や実習先などとのやり取りは、状況に応じてメールやオンラインなどを活用し効率的かつ円滑な連携を図ります。学生面談は担任を中心に全学年で実施し、学習や対人関係・金銭面・生活リズムなど多角的な視点で学生の状況把握ができるよう注力します。

学 科	理学療法学科
入学定員充足	令和7年度の入学定員は充足しております。次年度募集も地域住民向けのセミナーの開催、オープンキャンパス参加者や個別相談の増加、入学試験者の増加となるよう学科として取り組んでまいります。
教育(カリキュラム・学生サポート等)	カリキュラムは3年課程です。1年次は専門基礎、2年次は専門科目、3年次には総合臨床実習と理学療法士になるための総復習を実施予定です。例年通り各学年担任制で各学年2名ずつ配置しております。来年度も担任を固定化し、毎年同じ学年を受け持つ予定です。実技科目は医療法人和風会のセラピストによる講義およびファンリテーターとして授業に参加して頂き、学習理解や緊張感維持のためにご協力頂く予定です。来年度は総合臨床実習地の指導者による講義や実技も予定しております。サポート体制としては新入生へは入学直後より1週間掛けてオリエンテーションの実施、在校生に向けては、学習面を中心に随時個別面談を実施予定です。来年度も多職種連携として4学科合同親睦会や青梅看護学校との専門職連携、在校生交流として3学年親睦会を秋に実施予定です。
国家試験対策	1年次より国家試験に関わる講義や小テスト、3年次を中心に国家試験対策を行う予定です。基礎的な科目となる専門基礎分野演習、理学療法の専門科目となる専門分野演習、そして実地問題の対策としての総合分野演習を行い、国家試験合格率が全国平均を上回る結果となるようサポートを行う予定です。 2025自己採点結果は口頭にて。
就職支援	当学院において毎年春に就職ガイダンス、秋に就職説明会を実施しております。就職説明会では実習地を中心に各施設の方々にお集まり頂き、施設の情報を提供頂く予定です。また、希望者には専任教員が履歴書のチェックや面接練習を随時行い、来年度も引き続き年内就職内定率90%以上を目標予定です。
校友会(同窓会)との連携	年2~3回外部講師に講演等を行います。外部講師は全国でも有名な先生にお越し頂き、お話を頂く予定です。
その他	例年通り、入学直後の保護者説明会、在校生の保護者説明会を実施し、保護者との連携を強化してまいります。定期試験以外にも随時面談等にて学生やご家族と話し合いを持てる機会を引き続き設けます。学科教員には授業及び学生に対する指導力等の向上に向けた研修会参加、学会発表も継続してまいります。

学 科	言語聴覚学科
入学定員充足	学科共通の広報手段（体験会・個別相談等）に加え、ST啓蒙イベントSTフェスや社会人対象の夜間入学相談会（STナイト相談会）などを開催します。また、大学連携強化、病院サポーター病院との連携強化を継続します。また、本科の認知度向上を目的に、授業風景や学校生活などを本科専用オフィシャルSNS（Twitter・YouTube）にて、情報を発信します。また並行して、言語聴覚士の認知度向上を目的として、同様にオフィシャルSNSの利用や、学科教員により介護予防講座、地域発達障害児向けのことばの相談業務を行います。
教育(カリキュラム・学生サポート等)	STとしての就業動機を高め、継続して勤務できるSTを養成するため、病院・施設の現職STと連携し、講義でも言語聴覚療法の臨床に近い学習内容を提供し、学生の就業意欲がより向上するように指導します。また、性格特性や発達特性、人間関係の悩みなどを抱えている学生、合理的配慮を求めるが年々増加しているため、定期的あるいは随時に学生面談を行い、継続した個別支援を実施します。
国家試験対策	個別重視型の対策実績を活かし、1年次から学生の学力や個性に合わせた完全個別指導を行っています。また、各授業内容は国家試験の問題を意識した展開を行い、早い段階から国家試験問題に触れさせていきます。期待する効果として国家試験対策はもちろんですが、日頃の学習の理解度を確保する材料としても利用し、成績不良者を早期発見・早期対応することで合格率を担保する体制を整えて参ります。
就職支援	就職委員会を中心とした正規の支援に加え、個々の学生のニーズに合わせた支援も行います。最近の学生は、職場選択の重要度として「職場の雰囲気・人間関係」をあげることが多くなっています。そのため、「職場の雰囲気・人間関係」を感じる機会が多い実習施設やサポーター病院の存在が、職場選択先として大きくなっています。就職先の環境も把握し、情報が提供できるように努めます。
校友会(同窓会)との連携	校友会と連携し臨床現場で即実践できる内容の研修会を実施していきます。研修会では直接顔を合わせることができると、実習地確保や志願者発掘などの協力要請も併せて行います。また、入職後1年も満たない早期退職をなくすため、任意参加ですが、新卒者に対する相談会を引き続き実施します。
その他	1) 性格特性や発達特性、人間関係の悩みなどを抱えている学生が年々増加しており、学科教員、本学科の公認心理師や本校の臨床心理士と連携して、対応に当たります。また、経済的に不安がある学生に対しても本科独自のサポーター制度にて継続的に支援します。 2) 2026年度臨床実習変更承認申請（4施設：2026年2月現在）を東京都へ提出予定である。 3) 2026年4月より言語聴覚士養成所指導ガイドラインが変更となる。また変更に向けて、新設備環境の整備を引き続き行う。

学 科	介護福祉学科
入学定員充足	<p>現在、クラスの半数以上を留学生が占めており、今後も同様の傾向が続くと考えられます。そのため、留学生の受け入れ体制を安定させるために、保証人となる法人の拡充や、近隣日本語学校との連携を継続していきます。あわせて、日本人学生の入学促進を目的に、他学科と協力しながら高校訪問を行い、国内高校卒業者への周知を強化します。また、長期高度人材育成訓練（東京都委託訓練）の活用について広く周知し、社会人の入学者増加にも取り組みます。SNSでの情報発信や入学者紹介制度の案内を継続し、最終的には留学生30名、国内高校卒業者10名の入学者確保を目指します。</p>
教育(カリキュラム・学生サポート等)	<p>介護福祉学科では、1年次に介護の基礎となる知識と技術を学び、施設実習を通して実践力を身につけます。2年次には、医学的な視点を取り入れた専門的な介護を学び、根拠に基づいて考える力を育てます。授業の一部は他学科の教員が担当し、多職種連携を意識した学びを行っています。学習の負担に配慮し、理解が難しい科目は後期に変更するなど、学びやすいカリキュラムを整えています。入学時から個別面談を重視し、学生一人ひとりを支援しています。留学生には日本語教育を行い、学年や地域との交流を通して安心して学べる環境を整えています。</p>
国家試験対策	<p>国家試験対策として、1年次には学習の基礎を固める「基礎学習講座」を実施し、2年次には国家試験対策に特化した科目「総合介護福祉論」を学びます。2年次には模擬試験を2回実施し、合格基準に達していない学生には、国家試験直前までZoom等を活用した個別支援を行い、苦手分野の克服を図ります。また、国家試験では問題文の理解が重要であることから、2年次にも日本語教育を行い、確実な理解につなげています。</p>
就職支援	<p>1年時から障害者領域および高齢者領域の介護実習があります。実習を通じて多様な介護福祉サービスを知り職業理解ができるようにします。2年次には履歴書の書き方などを指導します。介護福祉士サポーター制度を利用する学生に関しては入学時からサポーター先施設でアルバイトをすることで、就職先と早い段階でつながることが出来、卒業後も安心して就職することができます。サポーター先施設と連携協力をします。</p>
校友会(同窓会)との連携	<p>卒業生が就職先の法人を代表して学校に挨拶に来ることもあります。連携を深めて実習先の確保や就職先の確保をします。入学者の紹介依頼や最新の介護福祉業界の動向などを情報交換することで在校生への授業にも活かしていきます。</p>
その他	<p>年度内に介護福祉士実務者研修1回を予定しております。介護福祉学科と合わせて地学地就ができる養成校であることを周知し地域に根差した教育をしていきます。</p>